

令和6年度農林水産技術会議結果概要

農業技術センター

開催日	令和6年12月13日	開催場所	農業技術センター
部会名	研究課題設定部会		
評価課題	露地野菜における有機栽培体系の確立と経営評価		
評価委員	農研機構中日本農業研究センター有機・環境保全型栽培グループ グループ長補佐 有機農業者（藤沢市）		
評価概要	○窒素分量は揃えているが、肥効、溶出が異なるのが気になる。農研機構で有機質資材の肥効を見える化するアプリがあるので確認してほしい。 ○収量は慣行の方が生育は早いので、有機と慣行を同じ日に収量調査すると有機の方が収量は少なくなってしまう。例えば、葉長が同じになった時期に収量を調査すると、それほど変わらないこともある。有機で慣行並みの収量を確保するのはハードルが高いので、そういう比較も有りだと思う。 ○病害虫・雑草は、今の栽培体系で比較的对応できると思うので、土壌肥料的なところで、株立をどう改善するのかが、今後の課題である。 ○緑肥の根張りなど、どのように根が伸びているのか確認してほしい。 ○必ずしも慣行と同等の収量、品質を目指すのが、ゴールではないと思う。成分分析、成分の違いを数字で示せるのであれば、劣るところをカバーできるのではないかな。 ○太陽熱消毒の被覆を剥いだ後は、足で踏んで鎮圧し、播種している。手間は掛かるが、表面が乾くのを改善できるのではないかな。 ○有機本来の姿を再現するには、もう少し面積がほしい。畑もきれい過ぎる。ある程度の草が土を覆うことのメリットがある。カバークロップとして通路に生やすなどの工夫をすると、天敵の棲家にもなる。 ○コマツナ、ハウレンソウは葉物のツートップである。有機で結果を示されれば、新規就農者の安心にも繋がると思う。		

開催日	令和7年1月31日	開催場所	農業技術センター三浦半島地区事務所
部会名	研究成果評価部会		
評価課題	ドローンを活用した三浦半島地域露地野菜のセンシング技術の開発		
評価委員	明治大学農学部黒川農場 専任教授 三浦市農業協同組合営農部 営農課長		
評価概要	○元々のモデルの誤差と今回のAI活用によるものと品種に対する感度の違いがあるかと思うが、そこを詰めると学術的には面白い。 ○現場への普及に向けては、メッシュ気象データの活用を試してみるとよい。 ○県単独事業でここまで取り組んでいる例はない。中身も深く、丁寧にデータもとっている。よい結果が出ているので、今後、関わる人を増やし、県の中外と広げて情報を集め、最終的にサービスとして提供できるよう進めてほしい。 ○結果は、現場に近くなっていると感じた。近年、異常気象が続いており、引き続き確認し、データを蓄積すれば、精度も上がってくると思う。今後も続けることが大事である。 ○春ダイコンは体質も葉のでき方も違う。データとしては不十分である。春キャベツは品種も絞れるので、いつ出荷できるのか、予測できるようになるとよい。		